

聖書:ルカの福音書7章18~35節

説教:おいでになるはずの方

はじめに

前回のあらすじです。ある百人隊長のしもべが死にかけてので、イエスの助けを求めたとき、百人隊長は「わざわざ家に来ていただくなくても、おことばを下されば、しもべは癒されます」と語り、それを聞いたイエスが「このような信仰はイスラエルのうちにも見たことがない」言って驚かれます。それから今度は、あるやもめが一人息子をなくして棺がかつぎ出されたとき、イエスは深くあわれんで「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と語り、息子がよみがえり、母親の手に返された。それでこのうわさが国中に広がっていった。そういうところを見てきて、いずれも「信仰」がテーマとなっていました。

今日はその続きで、洗礼者ヨハネが二人の弟子をイエスの所に派遣して、質問したところから始まります。ヨハネの質問はどのような意味があったのか。イエスはこれをどう受けとめられたのか。実はここもヨハネの信仰ということがテーマであると見ることができます。

1 ヨハネの疑問

1) 「私より力ある方が来られます」(3章16節)

ヨハネは、3章16節でこう語っていました。「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりも力のある方が来られます。」「私よりも力ある方」、あるいは「おいでになるはずの方」とは誰のことか。ヨハネがまだヨルダン川で活動していたとき、彼はイエスを見て、「見よ、世の罪を取り除く神の子羊」と言ってイエス指し示したことがありました。そのときは確信していた。ところがなんらかの事情が生じて、二人の弟子を派遣して、「おいでになるはずの方は、あなたですか」と質問させた。そのような流れです。

2) この方は消えない火で焼き尽くす

何らかの事情とは何か。いくつか考えられます。一つは、このときヨハネはどこにいたかと関係があります。彼は、領主ヘロデの罪を公然と非難したため、ヘロデの手で牢に閉じ込められています。そしてご存じのように、この後、首を切られて殺されてしまう。ヨハネが牢につながれながら、考えた。もし、本当にイエスがおいでになるはずの方であるなら、イエスはヘロデの悪事をさばくはずで

ある。というのは、ヨハネはこう語っていたのです。3章17節。「また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃きよめ、麦を集めて倉に納められます。そして、穀を消えない火で焼き尽くされます。」

イスラエルの王が堂々と律法を破って恥じることがない。そのような墮落した罪の世に、おいでになるはずの方としてイエスは来られたのですから何もしないわけがない。必ず、ヘロデの罪をさばくはずである。ヨハネはそのことをずっと期待していまかまかと待っていた。ところが、いつまでたっても、イエスは厳しいさばきをしようとしな。それでこのような質問をしてきた。これが一つの可能性です。

3) 死ぬ覚悟をもって(1章17節)

またもう一つの可能性としてこうも考えられる。ヨハネは自分が助かりたいと思って、イエスがさばきをなさることを期待したのではないか。ところがいつまでもさばきをなさらないので、質問してきた。別の表現をするなら、ヨハネは死ぬ覚悟があったのか、それともなかったのか、ということになる。このことは、イエスがこの後で語っていることを考えるときの、重要な手がかりとなりますので、きちんと確認しておく必要があります。

ヨハネがまだ生まれる前のことです。あるとき主の使い父ザカリヤの前に現れ、こう語ります。「生まれてくる子は、主に先だつて歩みます。主のために、整えられた民を用意します。」あとで父親からこのことを聞き、預言者になることを自覚していったでしょう。しかし、「預言者に召される」と言えば聞こえは良いのですが、旧約聖書の預言者の多くが迫害され、殺されているのです。彼も罪に対するさばきを語るわけですからただでは済まない覚悟していたはずで。もし、自分が助かりたいと思っていたのなら、ヘロデのことは何も言わないでしょう。死ぬ覚悟があるからヘロデの罪を真正面から指摘したのです。ヨハネは、このとき死ぬ覚悟をもってイエスに質問してきている。このことをまずおさえておきます。

2 ヨハネの役割

1) イザヤ預言(4章18節)

では、イエスはどう答えたか。22節。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしたこと

をヨハネに伝えなさい。目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。」

イエスは、かつてご自分の故郷ナザレで預言者イザヤのみことばを読んだことがありました。

「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、主の恵みの年を告げるために。」

もし、自分の目で見て、自分の耳で聞いてイザヤが預言したとおりのことが起きているのなら、おいでになるはずの方が誰かは、それですぐにわかる。

2) マラキ預言 (マラキ3章1節)

そう語ってから、「女から生まれた者の中で、ヨハネよりも偉大な者はだれもいません」と言う。ここまでヨハネを高く評価するのはなぜか。ヒントは27節の二重かぎ括弧で書かれていることばにあります。「見よ、わたしはわたしの使いをあなたの前に遣わす。彼は、あなたの前にあなたの道を備える。」これはマラキ書3章1節からの引用です。「わたしの使い」とはヨハネのこと。「わたし」は父なる神。では「あなた」は誰のことか。もうおわかりだと思いますが、イエスのことです。イエスが通られる道を備える者、それがヨハネである。そのことは、かつてヨハネの父が、主の使いから言われていたことでもありました。それはよいとして、信仰が揺らいでいるように見えるヨハネをどうして絶賛するのか。腑に落ちません。なにか理由がありそうです。

3) なにもできなくなったのか?

洗礼者ヨハネのことについて、私は神学校の学生に、このような質問をします。「マラキ書3章1節にこうあるけれど、ヨハネはどのようにしてイエスが通られる道を備えたのでしょうか。」学生は答えます。「ヨハネは荒野で神のみことばを語り、人々に対してイエスを紹介し、水で悔い改めのバプテスマを授けました。」そのとおり。ではそれだけでしょいか。いまヨハネは牢に閉じ込められ、間もなく殺される。何もできませんから、人の目には、ヨハネの役割は完全に終わったかに見えます。

4) 死ぬことで主の道を備える

でも神のご計画はそういうものでしょうか。ヘロデの手によって邪魔をされて、途中で終わってしまうのか。そんなはずはない。神のご計画は、語ったとおりに完全に成就します。ヨハネは何もできないよう見えていても、まだなすべきことが残っているのではないか。いったい何か。マラキはこう言っていたのです。「彼は、あなたの前にあなたの道を備える。」この道はどこに続く道ですか。主の歩まれる道ですから、当然十字架に向かう道です。その道をどうやって備えるのか。ヨハネが、ヘロデの手によって殺される。そのことが、イエスの十字架に向かわれる道をまっすぐに備えることになる。ヨハネはそのことを自覚しています。

3 ヨハネの遺言

1) バプテスマを受けなかった人たち

イエスはそのことをご存じです。そのうえで答えています。ヨハネからの質問を聞いたとき、イエスは何をご覧になっていたのか。そのことを見ていく前に、ヨハネを人々はどう受けとめたか。そのことに少し触れておきます。イエスは当時歌われていた童歌(わらべうた)を引用してからこう言う。33、34節。「バプテスマのヨハネが来て、パンも食わず、ぶどう酒も飲まずにいと、あなたがたは『あれは悪霊につかわれている』と言い、人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言います。」

ヨハネが断食して食べないでいると、悪霊につかわれているのだと言い、イエスが罪人といっしょに宴会を開いていると、大食いだとか大酒飲みと言われる。どこかにありそうな話しです。この人たちは、自分では絶対に手を出そうとせず、遠くに立って批判ばかりする。一番安全です。こうして、ヨハネが来てもバプテスマを受けようとしません。聖書の知識は立派ですから、自分たちは頭が良い、何でも知っている、智恵の子であると自慢していた。

2) バプテスマを受けた人たち

しかし、そうでない人たちもいました。29節。「ヨハネの教えを聞いた民はみな、取税人たちでさえ彼からバプテスマを受けて、神が正しいことを認めました。」

当時、罪人と思われてた取税人は、ヨハネの語る神のことばに心打たれて、バプテスマを受けました。人々からは蔑まれていたのに、神のみこころ

を受け入れたのですから、イエスによれば彼らこそ智恵の子だったのです。

3) 十字架に続く道

こうして、神の前にだれが本当の智恵の子であるのか、そのことを明らかにしたのがヨハネです。そのヨハネが自分がもうすぐ殺されるとの覚悟をもってイエスに質問してきた。それは一見、ヨハネの確信が揺らいだかのような、弱々しく見えることばです。ところがイエスはヨハネを高く評価する。なにかちぐはぐな印象があります。この箇所をヨハネの信仰が揺らいでいる、と読むからそうなるのではないのでしょうか。

本当は逆なのです。どういうことか。これはヨハネのイエスに対する遺言である、と読むとするならどうなるでしょう。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、他の方を待つべきでしょうか。」分からなくなったので質問した、のではなくて、ヨハネはこう言いたかったのではないのでしょうか。「私はあなたの道を備えるために、もうすぐ殺されます。私が殺されたとき、あなたは十字架に向かう道をまっすぐに進むことになります。あなたがほんとうにおいでになるはずの方であるのならば、もう先延ばしにはできません。私が倒れたら、あなたは私を踏み越えて、十字架でさばきを受けて下さい。」

神のご計画は測り知れないものがあります。ヨハネが死ぬことによって、主の十字架がくっきりと浮かび上がるようになっていく。そのことを神は旧約の時代から預言者たちを通して預言していた。私たちを罪から救い出すために、これほどの神のご計画と配慮があったのかと、驚きます。いのちをかけて主の十字架の道を備えたヨハネ。そのヨハネに励まされて、主は十字架の道を歩み始めていきます。